

薬 剤 試 験 {種 類 名} {商 品 名}	委託者名	有効成分および含有率	新継の別 前回判定	担当場所	試験のねらい;処理方法 処理時期;散布薬量	今回 判定	判 定 理 由 または 内 容
1. ACP-68 - 250 液 (つづき)							液散布。 継: PH濃度 の調製(葉 害)連年(反 復)処理の 影響につい て。
2. MO-C 乳 〔蒸散抑制 剤 ミクロンC〕	日本技研	パラフィンカルナバ固 型分 40%	継 継	福島蚕試, 山梨蚕試, 宮崎総農試 (蚕業部). (2)	蒸散抑制(萎凋防止); 散布処理;晩秋蚕期収 穫1日前;20, 30, 50 倍液. (収穫後の萎凋測定)	実	実:[桑葉萎凋 防止剤とし て]桑収穫 1日前50倍 液散布。
2' 同 上	同 上	同 上	継 継	山梨蚕試, 宮崎総農試 (蚕業部). (2)	蒸散抑制(萎凋防止) 蚕への影響;散布処理 ; 秋~晩秋蚕期; 収穫 1日前収穫後すぐに給 与; 20, 50, 30倍液。		

C. その他:成績取りまとめ時の雑草量調査の数値記入について。

昭和52年度茶園関係除草剤 試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会技術部

昭和52年度における茶園関係の除草剤委託試験は、B-3015・P粒剤の1点だけであったので、試験を行った5場所(茶試、同支場、埼玉県茶試、静岡県茶試、三重県茶業センター)の成績を要約し、判定結果について報告する。

本除草剤の抑草効果については、メヒシバ・カヤツリグサ・タデ類等1年生雑草を対象に、茶試本場を除く4場所で行い、茶試本場では本除草剤の施用による茶樹根部への影響、さらには抑草効果に及ぼす土壌水分の影響等について検討した。

処理量はB-3015・P粒剤400g, 600g,

800g/a(製品量)で、茶園のうね間に処理し、その抑草効果、茶樹および製茶の品質に及ぼす影響を春、夏の2季にCAT粒剤と比較しながら検討した。またチャの根部の発育に及ぼす影響については、根の生長を観察できる根箱を用いて試験し、土壌水分と抑草効果との関係については、各段階の土壌水分下で処理した場合の、メヒシバの抑草効果を中心に検討した。

各場所で行った抑草効果の検討結果を要約すると、春、夏両季を通じてB-3015・Pの抑草効果はかなり高く、全般的に800g/a程度の施用量の多いほど抑草効果は高い傾向を示した

が、春処理のほうが夏処理よりやや効果がまさるようである。

また一般にメヒシバを中心とするイネ科雑草に対する抑草効果は高いが、非イネ科雑草に対してはイネ科とほぼ同等か、対照薬剤 C T A より効果の劣る場合もみられた。

いずれにしても本除草剤による抑草期間は、イネ科雑草を対象とした場合春処理では40～50日、夏処理でも30日以上におよび、かなり高い抑草効果を有することが判明した。

次に本除草剤の使用による茶樹の地上部に対する葉害等は各場所とも見当たらず、製茶試料の審査結果からも、埼玉、静岡、三重の3場所では異臭、異味等何らの異状も認められなかった。しかし茶試支場では、春季の一番茶2葉開葉期に本剤を処理したところ、10日後の摘採中にすでに葉臭が認められ、製品にも異臭があり、この傾向は夏季に別の品種を用いて試験した場合も同様であった。

さらに本剤の処理によるチャの根の発育に及ぼす影響については、施用量の増加につれて深

さ10cm程度の浅層で、根の分布が少なくなることから、従来検討してきた除草剤より影響は比較的少ないものの、株元への処理は避けるべきであろうとされた。

なお本除草剤の抑草効果に及ぼす土壌水分の影響について検討したところ、本剤の薬効は40～60%（対最大容水量比）の範囲で大きく、40%で薬剤量は最少で済み、土壌水分が多くなるにつれて、薬量を多くする必要のあることを認めた。しかし本剤は C A T 粒剤等と比較して、薬効が土壌水分に影響されることの比較的少ない薬剤と考えられた。

以上を要約して、B-3015・P粒剤の茶園雑草防除への適用については、その抑草効果がかなり高いことから、実用化への可能性がかなり高いものと判断されるが、まだ初年度の試験結果であることと、施用量のは握が十分でないこと、さらに1場所で製品に異臭が認められたことなど重要な指摘もみられるので、これらの点を中心に継続検討を必要とする。

昭和 52 年度 茶園関係除草剤試験薬剤判定結果表

対象作物	薬 剤 名	剤型	有効成分および含有率	委託会社	試験の種類	判定	判定理由および内容
チャ	B-3015・P	粒	S-(4-クロロベンジル) N,N-ジエチルチオールカ ーバメイト：ベンチオカーブ 8% 2-メチルメルカプト-4,6 -ビスイソプロピルアミノ S-トリアジン：プロメトリ ン 0.8%	クミアイ化学	作用性 適用性	継	特に製品への影響を 中心に再検討し、適確な 処理量の設定を図る。

財団法人日本植物調節剤研究協会編

Weed List in Asian-Pacific Area

A 4 版 47 ページ
定 価 2,000 円 (送料別)

東京都港区愛宕1-2-2 全国農村教育協会内
発行所 植 調 編 集 印 刷 事 務 所